

東京歯科大学同窓会々報

アンデス遠征隊の成功をたたえる

会長 福島秀策

母校学生会山岳部OBをもつて組織された南米ペルーのアンデス遠征隊は、別項所載のとおり一応の成功を収め、团长渡辺富士夫教授は、本月二十三日第一陣として凱旋、無事帰朝した。まことに喜びにたえない。思うに、この壮挙は、われわれ素人にとつてはいささか冒険の感がなくもなかったが、ひたすら無事なることを祈っていたのである。

しかも、ペルー・アンデスのネバド・アキルポの初登頂を果したばかりでなく、今一つの大きな目的である学術調査、すなわち世界文化芸術の発祥に多くの寄与をしたインカ帝国の遺跡をさぐり、古代インディオの口腔および歯牙に関する文化人類学上の貴重な資料を研究し、また、アンデス山群の高所居住民の口腔衛生状態の調査もなしとげたということは、まさに、世に誇るにたる業績をあげたといわねばならぬ。

私は、この成功の陰に隊員並びに関係者の並々ならぬ苦心のあったことを承知しているのであるが、事の成るためには、偶然をたのんではならぬことを今回の壮挙の成功をみるにつけ、とくに強く感ずる次第である。

話は違うが、学生野球育ての親ともいふべき故飛田穂州氏にある人が野球に勝つ秘訣の訓を請うたところ、一に練習、二に練習、三に練習といったという話を聞いた。

私は、今回の壮挙の成功は、この練習という文字が準備という文字に置換った結果だと思つている。出発前にとられた万全の準備こそアキルポの発登頂となり、学術調査の成功をから得た大きな条件であったと確信している。もちろん、隊員個人の経験と実力とが成功の根底をなすものであることはいうまでもないが、それ自身永い時間をかけて積重ねられた各人の準備、用意の現われであると思う。ここに、「人事を尽して天命を俟つ」という言葉がびつたりと当てはまるのである。

私は、遠征隊の壮挙の成功に双手をあげて万歳を叫ぶものであるが、前にも記したように、その陰にわがことの如く準備に協力し、心からその成功を祈つてきた数多くの先輩同僚のあったことを忘れてはならないと思う。

日本・ペルーの文化交流に偉大な功績をあげた東歯山岳部OBペルー・アンデス遠征隊万歳！

御案内

◎第七十四回同窓会総会及び講演会

◇日時 十一月十日(日)午前十時三十分―午後五時
◇場所 母校講堂

◎総会 (午前十時三十分―十二時)

◇議案 (1)昭和四十二年度経常部及び特別会計収支決算の承認を求め
る件 (2)昭和四十四年度経常部及び特別会計収支予算案
○追加議案は当日提出します。

◇会務報告

◎シンポジウム(午後一時―午後五時)

◇演題 「咬合を考ふる」 ◇司会 木村吉太郎教授

咬合を考ふるは、歯科医療にあり得ないが、それならどこまで咬合を考ふるべきか、歯科臨床に携わっているのかと反問されて明快に答えることの出来る臨床家が果して何人いるであろうか。今回は、この「咬合」の問題を成人の場合のみならず、小児についても母校臨床各科の専門家と一人の開業医によるシンポジウムによって浮彫りし、聴衆各位と共にさらに問題点を探求することにした。会員諸君の活潑な発言を期待します。

◇講師 (膿漏) 木村吉太郎教授。(補綴) 鶴養弘教授。(外科) 大森清弘助教授。(充填) 高橋一祐助教授。(小児歯科) 今西博助教授。(矯正) 一色泰成講師。(開業) 海老沢嗣郎先生

◎最新歯科器械、材料の展示即売会(総会当日・母校ホールにて)

◎同窓会評議員支部長会

◇日時 十一月九日(土)午後一時より
◇議案 (1)昭和四十二年度経常部及び特別会計収支決算の承認を求め
る件(2)昭和四十四年度経常部及び特別会計収支予算案
○追加議案は当日提出します。

◇会務報告

◎第一七六回東京歯科大学学会(総会)

◇日時 十一月九日(土)午前九時より
◇特別講演 齒槽膿漏症治療における歯齦形態改善の臨床的意義について
佐藤徹一郎助教授
◇宿題報告 歯齦粘膜内の石灰化物について 見明 清助教

杉山不二学長立候補

日本学術会議会員(第七部全国区歯学)に



今秋行なわれる第八期日本学術会議会員選挙には、既報のとおり東京歯科大学学会より杉山不二学長が推薦立候補された。同時に杉山不二学長の人格、スローガン、および手腕に対して、第七部全国区歯学の会員として適当と認められ日本歯科医学会鈴木 勝会長をはじめとして、口腔衛生学会丹羽輝男幹事長など左記の機関の代表者からそれぞれ推薦を受けられた。

○日本歯科保存学会

会長 浅野 武男

○日本口腔外科学会

総務理事 村瀬 正雄

○日本歯周病学会

専務理事 木村吉太郎

○口腔衛生学会

幹事長 丹羽 輝男

○日本学校歯科医会

会長 向井 喜男

○歯科医療管理学会

会長 小室 史郎

○歯科法医談話会

世話人 鈴木 和男

○日本補綴歯科学会

会長 河辺 清治

日本学術会議について

日本学術会議の第八期会員を選挙は、今秋十一月に迫りましたが、この会議のもつ役割や性質、選挙法などについて多数の同窓諸氏からご質問が寄せられましたので、簡単に説明申し上げます。

◇日本学術会議とは、わが国科学者の内外に対する代表機関で、科学に関する重要事項を審議し、重要施策を政府に勧告するものです。

◇その構成は、自然および人文科学の領域が類系別に分れた七部から構成され三年毎に行なわれる選挙によって選出された会員によって運営されます。

◇歯学は、医学、薬学などと共に本会議の第七部に属しており、二名の定員を持っています。某方面よりの報道にて定員三名に増員されたかのごとき印象を与える無責任な言動が、まことしやかに流布

されているようであるが、これはまったくの誤報であり、まどわされたいよう願います。

◇会員および選挙人の資格は、ともに本年七、八月発表の日本学術会議有権者名簿に登録された者に限られます。

◇選挙方法は、郵便投票によります。すなわち九月下旬より十月下旬に本人宛に中央選挙管理会から送られて来る所定の投票用紙に選出しようとする者の氏名を自ら記載して、本人から直接郵送しなければなりません。(全国区は専門

の歯学から一名、専門によらざる第七部の候補者一名ならびに地方区一名の三名連記です。)

◇今度の会員選挙の全国区歯学からの立候補者は、杉山不二、東京歯大 学長、坪根政治九歯大 学長、中沢勇歯大 教授の三氏であります。

◇選挙運動は、特定の検印付ハガキで行ないます。しかしその運動にはなにびとも当選し、当選させ、または当選させない目的をもった次の行為は、厳禁されています。

(ア)文書、図画、録音テープ類の頒布(管理会の検印を受けた葉書を除く)、ポスター、立札の掲示、スライド、映画の映写。(イ)新聞、雑誌、放送等による広告、宣伝。(ウ)演説会、座談会その他これに準ずる方法による選挙運動。(エ)戸別訪問、またはこれに類する電話による投票の請託。(オ)署名運動。(カ)利害をもって投票を誘導する行為。

全国区(基礎医学)

牛場大蔵、木下繁太郎、佐藤昌康、白木博次、田中英雄、中塚正行、藤森開一、和佐野武雄

臨床医学

江原要一、懸田克明、北村 武、木村 登、高原滋夫、橋本義雄、樋口一成、平松 博、宝来善次、山形敏一、脇坂行一

公衆衛生学

秋元寿恵夫、西尾雅七、松倉豊治

「日本学術会議の会員選挙は世界に類例を見ないものであり、これの円満な運営は科学者の高度の道徳心の上に立ってのみ可能であり、単に法律をもって律し得るものではない。全国の科学者はこの点に深く思いをいたし、選挙にあたっては、科学者としての良心に恥じないよう、行動せられることを期待する。」

終りに、同窓有権者の諸氏には右の声明の精神に則って、日本の科学界が益々向上するよう、貴重な一票を正しく行使されることを希望します。

為。(ハ)組織における地位または機構を利用して投票用紙を集めまたは投票について指示、依頼する行為。

なお、日本学術会議では、第十二回総会で次のような声明を発表いたしました。

歯学

杉山不二、坪根政治、中沢 勇、上尾庄次郎、野上寿、堀井善一、水野義久、宮本高明

地方区

北海道 渡辺左武郎 東北 高橋実、松永藤雄、三田俊定 関東 伊藤辰治、久保全雄 中部 菅一男 近畿 中村文雄 中国・四国 三好和雄 九州 佐藤純一郎

第八期日本学術会議会員

選挙候補者(第七部)

第八期日本学術会議

選挙の投票について

第八期日本学術会議会員選挙は、十一月二十五日日本学術会議必着による郵便投票によって行なわれます。三名連記制であるから投票用紙には「全国区A」（全国区おもて票）、「全国区B」（全国区うら票）ならびに地方区票の三つの記載項目があります。

「全国区A」票は専門別で、われわれの場合は歯学の候補者から一名記載します。現在歯学は定員二名のところを、杉山不二東歯大校長ほか二名が立候補しております。

「全国区B」票は有権者の専門にかかわらず第七部全国区、医・歯・薬関係者から一名を記載します。したがって歯学を含めて基礎医学、臨床医学、公衆衛生、薬学などの立候補者から選ばれるわけですが歯学の方を記載しても当選の可能性は変わりません。

「地方区」票は北海道、東北、関東、中部、近畿、中四国、九州の七地方区からそれぞれ一名選出されます。しかし東北、関東以外に立候補者は一名しかおりませんので無競争で当選が決定しており記載する必要はありません。

△印 第七部全国区候補者氏名
 □印 第七部全国区歯学候補者氏名、たとえば杉山不二など

○印 第七部地方区候補者氏名

投票が有効な場合

全国区(A)	□	□	□
全国区(B)	△	△	△
地方区	○	○	○

投票が無効な場合

全国区(A)	○	○	○
全国区(B)	□	□	□
地方区	△	△	△

その他無効となる場合

全国区(A)	□	□	□
全国区(B)	□	□	□
地方区	□	□	□

投票用紙に自己の印を押さないこと

- ◇ (A)の投票が無効ではないが(B)と地方区の票が無効となる場合
 - ◇ (イ)投票用紙に投票者の住所氏名を記入し、または押印した場合
 - ◇ (ロ) (A)、(B)、地方区を切り離れた場合
 - ◇ (ハ)自書したものでないと認められた場合、等々
- なお、投票に関する注意書を十分にご精読の上、貴重な一票が無効にならないようお願いいたします。

今秋行なわれる第八期日本学術会議会員の選挙には、既報のとおり本学からは杉山不二学長が推薦されて第七部歯学より立候補されました。

日本学術会議は昭和二十四年に発足し、第七部の医歯薬学関係は、五つの専門に分かれ、歯学もその一つに数えられ、定員は二名であります。第一期の会員は、本学の故花沢鼎教授(任期途中より山崎清博士になる)と、長尾優学長(医歯大)が選出されました。第二・三期は本学の故奥村鶴吉学長と小野寅之助教授(大歯大)、また第四期は豊田実教授(日歯大)と小野寅之助教授(大歯大)、さらに第五期は永松勝海学長(九歯大)と鈴木勝歯学部長(日大歯)が会員に選出された。第六・七期会員は昭和三十七・四十年の選挙で鈴木勝歯

日本学術会議 第七部歯学会員の沿革

学部長(日大歯)と白教美輝雄学長(大歯大)が選出された。両選挙に本学から推薦立候補された松宮誠一教授、杉山不二学長は僅少差で次点になりました。

このように故奥村鶴吉学長が会員になられてから、第四・五・六期の九カ年間は他大学教授らが会員になりました。このため、私

鑑み、本学は万難を排して同会議に会員を送る必要性を痛感し、再度杉山不二学長に立候補していた。これは新たな坪根、中沢の両氏が立候補しております。かなりの苦戦が予想されますので、われわれ本学関係者はこぞでこの使命の達成に邁進しなければなりません。

さて、今期の選挙有権者を見ますと第一部より第七部までの総数は十六万余名といわれ、第七部はそのうち八三、八八四名です。さらにその中で歯学の有権者は六、四〇〇名おります。従って、歯学で当選するためには約二、二〇〇票を必要としますが、本学関係の支持票は一、六〇〇票前後しかありませんので、約六〇〇票の他大学関係者の支持票を得なければなりません。

説 日本学術会議会員選挙 当選人の決定

(ア) 全国区選挙
 1、専門別定員
 各人の専門別の得票のみについて、その有効投票の最多数を得たものから、順次当選人を決定します。

2、専門にかかわらず定員
 各人の専門別の得票と専門にかかわらず得票とを通算して、その有効投票の最多数のものから、

順次当選人を決定します。(第七部では専門別当選人を除く八名)
 (イ) 地方区選挙
 有効投票の最多数を得た者をもって当選人とします。ただし、全国七地方区の定員一名をこえない場合は当該候補者を当選人と定めます。

(ウ) アまたはイにおいて得票数の同じ者がある時は、年長順によ

り当選人を決定します。
 (エ) 当選人が決定したときは、中央選挙管理会は、直ちに当選人に当選の旨を告知し、かつ、当選人の氏名を官報を以て公示します。
 (オ) 当選人は昭和四十四年一月二十日会員に就任し、その任期は昭和四十七年九月十九日までです。
 (カ) 会員に欠員を生じたときは、あらかじめ中央選挙管理会の指定する順位で補充します。
 (キ) 有権者は、当選人決定に関し異議ある時は当選人公示日から一カ月以内に文書で申立て得る。

母校より

松宮教授、アルゼンチンおよびチリーに招聘される

松宮教授は、先般外務省を通じアルゼンチンおよびチリーより招聘をうけ、国立ベノスアイレス大学および国立サンチアゴ大学における学生への特別講義と学術講演のため、去る八月二十三日ブラジル航空(VARIG)で羽田を出発された。

アルゼンチンの首都にある国立ベノスアイレス大学歯学部は一八九二年(明治二十五年)の創立で、現在南米随一の偉容(十七階建)と設備とを誇るもので、松宮教授は二十五日より一週間、午前中はすべて学生の講義を行ない、主として歯科保存学および口腔外科学に関する臨床病理学を述べられた。また、午後は連続講習会の形で学術講演会が毎日催され、これには同大学教授、研究者らのみならず、隣国のポリビア、ウルガイ、パラガイ、ブラジルなどからも多数の大学教授が聴講に参加した。二十八日には同大学の大讲堂で、松宮教授の歓迎式が催され、全学の教授、学生のほか、とくに日本側から河崎大使も参列され

た。席上タミニー学長は、同教授を名誉校友に推薦し、栄ある校章を同校教授の胸にみずから飾った。

チリーの首府サンチアゴ大学歯学部も前者に劣らぬ偉容と設備とを誇るもので、本大学では九月一日から一週間、前と同じ形式で講義と講演会が行なわれ、この際松宮教授はチリー口腔治療学会名誉会員に推薦された。その後同教授は盛大な見送りのもとに同地を出発、九月十一日元気に帰国された。

「歯の鑑識アルバム」の出版

警察庁では、この程、第一線警察官に対する犯罪鑑識に必要な歯に関する知識を高めるために、「歯の鑑識アルバム」を作り、全国警察署に配布中である。

本書のような鑑識関係の教養図書は、警察庁の企画としては、初の試みであり、外国にも例をみないものとして期待されている。著者は、本学法歯学研究室主任鈴木和男助教授で、名刺大のカラー写真約一九〇枚を入れた百二十三頁に亘る美麗なA5版の図書である。

警察庁刑事局鑑識課の編集発行なので非売品。近い将来、歯科医師、医師あるいは学生の希望者には、実費で頒布される予定。価格は、四百円程度の見込み。

本部短信

- 7月15日〜20日 夏期講習会
 - 7月18日 定例役員会
 - 8月15日 定例役員会
 - 8月18日 日曜セミナー
 - 8月24日 南信支部総会
 - 8月25日 福島会長出張
 - 8月29日 東信部会合
 - 8月29日 福島会長出張
 - 8月31日 臨時役員会
 - 9月6日 医政部会合
 - 9月12日 関東地区支部長会
 - 9月13日 学術委員会
 - 9月15日 日曜セミナー
 - 9月18日 医政部第二部会
 - 9月19日 定例役員会
 - 9月21日 中国地区支部長会
 - 9月22日 岡山県支部総会
 - 9月25日 日学役員代議員懇談会
- ◇ 支部長代理 15有本和男
- 北信支部 支部長逝去につき有本副支部長職務代行
- ◇ 火災罹災会員 自宅半焼 8月11日 医成田喜作

次回は雑誌形式

原稿 〆 切

十一月二十五日

ペルー・アンデス遠征隊 処女峰アキルポの登頂成る

枝痕クラブ創立三十五周年を記念して、本年五月に日本を出発したペルーアンデス遠征隊はアキルポの登頂に成功したが、渡辺富士夫隊長から、同窓会宛に左記の報告があった。

全く御無音に打過ぎ、なんとも申し訳ございません。由に研究する便宜を与えられませんでした。予想以上の収穫があったものと信じております。

會長先生はじめ、同窓会員の皆様、御元氣にお過しの事と存じます。お蔭様で、処女峰アキルポの登頂に成功することができました。困難の連続でしたが、頑張ったかいがありました。その節は、お祝いの電報を頂戴し、隊員一同と共に感激しました。改めて御礼申し上げます。

学術調査についても、三〇〇メートルの高所居住のインディオの口腔診査とアガールプレート法の実験にも成功しました。こちらの方が登山よりむしろ、むずかしいと思っておりますが、自家発電でエンジンを使うことができましたので大丈夫と思っております。また、インカの遺跡も数回発掘致しました。貴重な頭蓋骨を約七〇個得る事ができました。これは当地の考古学研究者で、自分の博物館をお持ちの天野芳太郎氏の好意によりできたものです。その他、多くの博物館でも、自

先日は、文部省に於て、表彰式があり、全隊員に表彰状が伝達されました。これは、全く異例なことだそうですね。当地の新聞にも大きく報道され、上院議員その他の招宴をうけ、いささかびびくりしているしまつです。歯科大学、歯科医師会にも大歓迎を受けております。

ぜひ分無理はありましたが、来てよかったと、しみじみ思っております。そして、目的を達することができたと自負しております。いづれ、帰りましたら、御報告致しますが、おみやげ話は一杯あります。

懐かしい諸先生との会合を楽しみにしています。

八月三十一日リマにて 渡辺 富士夫

教訓三思

栃木県 牟田健作

「木は木によって支えられ、石は石によって磨かれ、人は人によって導かれる」ということばに私はこよなく感銘している。

同窓会報一二四号の巻頭に福島会長は成功の秘訣として内村鑑三先生の遺訓を会員諸彦の金科玉条として三思するようとの誠にありたい親心を示されて、反省せざるを得なかった。

前掲の血脇先生の訓や松井教授の道徳談義いつの世にも人間形成の重要な時代はある筈もないが、わけても現代ほど必要に迫られている時代はない。血脇先生はいつも「歯科医になるまえに人になれ」と訓しめられていた。雨がふれば、人はなげなく、傘をひらく、この自然な心の働きの、その素直さに、私たちは日ごろ、あまり気づいてはいない、だが、この素直な心、自然な心のなかにこそ、物事のありのままの姿、真実をつかむ、偉大な力があることを学びたい、何ものにもとらわれない、伸びやかな心で、この世の姿と、自分の仕事をかえりみるとき、人間としてなすべきこと、国としてとるべき道が、そこにおのずから明らかになるだろう。それは夢にすぎないだろうか、ただ、おたがい、おなじ国に生きる人間として、素直に心と心を寄せあい、手と手を握りあつて、この間日本の繁栄と平和と幸福とを、ひとすじに探し求めることができないうるか、真剣になれば、意見の対立もおきるに違いない、だが、私たち日本人としての願いが一つなら、かならず、そこに高い調和と力が生まれよう。それは、決して夢ではないはずだ」とP H Pは説いている。

福島先生を会長に迎えて従来の会報とやや編集の趣が変わって来たことは誠に喜ばしい限りである。ブレーキをかける役目も会長として血脇先生の遺志を継ぐ人として大事なことでないだろうか。

吾々は常に反省して知恵を集め、力を合せて、いつも新しい可能性を切り開いて、前進更に前進に努めたいものである。

老境にある私として後進の方々の前途の多幸を祈るのあまりに老嫗心から一筆啓上。

明楽佐一郎先生を悼む

井口岳久



先生が不幸病魔におかされ、虎ノ門病院に入院されていること

を、私たちは一日も早い全快の日を、ひたすら希って居ったのでございます。しかし先生は多くの人々の祈り空しく六月九日お別れしなければならなくなりました。私たちは再び相まみえることはできなくなつたかと思うと、これ以上の悲しみはありません。

先生は大正九年、母校を卒業され、歯科界に身を立って以来四十八年間、温厚篤実、明朗、優れた社交性を以て、歯科医学医師の進歩発展に尽力された功績はまことに大なるものがあつて、業績は長く歯科界に残るものであります。先生は又、和歌山初代からのロータリークラブ会長、近畿プロック協会長を歴任される事数十年、母

校同窓会評議員、和歌山県支部長として二十年余、尽力されました。先生の園芸趣味の細やかな事はたぐいなく、和歌山菊の会会長をされ、毎年秋には見事な展覧会を供覧されました。

又囲碁界においては二段の有段者で、日本棋員、和歌山県支部長として約十年間、後進の指導に当られました。

先生は医学の自由性と医師の主体性を重んぜられ、保険診療を扱はず、医道の昂揚につとめられ、ひたすら精進なされました。残された数々の功績と教訓は枚挙にいとまありません。

和歌山になくしてはならぬ先生、今幽明境を異にし、その声をきかず、その顔を見る事が出来ません。御冥福を心からお祈り申上げ、残された御遺族の上に一層の御加護あり人事をお祈り致します。

私達会員一同、先生とのお別れにあたり、先生の御人徳を偲び、遺志を継いで協力一致、歯科界発展の為精進する覚悟でございます。先生どうか安らかに眠りください。

医学博士 故 遠藤至六郎先生

複製再発行 限定出版 口腔外科通論及手術学

東歯大名誉教授大井清先生ならびに東歯大教授長尾喜景先生の御賛同を得まして、歯科医学界における名著と謳われております成書を限定出版致します。何卒座右に一冊お備え下さい。

B5版 上製 800頁
カラー頁20頁 10月25日発行
(定価 9,500円 書留送料 300円)

株式会社 医学書房

振替東京 84407・東京都新宿区大京町9・電(359)4997

支部のうごき

広島県支部

嘗って福島先生が学長御就任の時始めに広島県東部の鞆の浦にて盛大に支部總會を開催、当時の様子を懐しみ乍ら諸先生方には再び福島先生を、此の度は同窓会長として御迎え出来た事を心から喜び、鶴首して御待ちしていた次第です。

幸い中村支部長の御尽力に依り御来広が決まり、又口腔外科教室の新鋭麻酔科の中久喜教授も一緒に御同道して戴き、当地のクラスメートを始め同窓会員は此の日の来るのを楽しみにしていました。

六月二十三日福島同窓会長、中久喜教授、三原駅頭に御元氣な姿を現され、三原歯科医師会会長の岸田先生を始め同窓各位の出迎にて三原市「よし幸」旅館に入る。

元老日野、三村、荒谷先生の御元氣な姿も見え、総員五十有余名の会員が一同に会し、午後一時より中尾副支部長開会の辞に始まり中村支部長が議長に選出され議事無事平穩裡に終了。

新入会員として困島の林豊先生西条の小早川先生を

紹介。総会終了後福島同窓会長より大学の近況報告、今後の同窓会のあり方、又参院選挙についての力強い御話に会員一同傾聴し、福島先生御健在なりの感を一層深め、御喜した次第です。

其の後中久喜教授の「麻酔」時に於ける不快事項の救急処置について約一時間、各講演を受講、明日からの臨床にすぐ役立つ有意義な講演に同窓会の意義を再び感謝しました。



斯くして予定の行事は終了、総

工費二億円を投資し新装なった、「よし幸」大広間にて宴会開始、母校校歌「校旗は燦たり」のレコードに乗り、酒はよし、飲む程に酔う程に同窓会長の下に集り、同窓会ならではのムード一杯、平素の御無沙汰を謝し旧交を温め、歌に踊りに飲むのひとときを過ぎ明日への活力を養った次第です。

明けて二十四日中村支部長を始め有志先輩により釣舟を出し瀬戸のレジャーに再先生を御招きしました。以下三原岸田先生の手記を御紹介いたします。藤原生

六月二十四日(月曜日)

福島同窓会々長、中久喜喬教授荒谷顧問、高木日衛監事、中村現支部長、岸田三原市歯会長右六名早晩四時半起床、五時半二隻の釣舟に分乗、三原港を出港、横島方面へキス釣に会長慰安の為め出かける。降らず照らずの最高の釣日和、瀬戸内海独特の小島の絶景を觀賞しながら海のオゾンを胸一杯吸いつつ船頭のしつらえて呉れた浅利貝のお味おつけに舌鼓を打ち乍ら朝食を終り、戦闘準備にかかる目的の漁場へ到着、一斉に糸を垂れる、中村支部長一番槍の歓声、福島会長に腕の牙を示され、同行のものも今日許りは打寛ろいで釣のダイゴ味を満喫、横島の磯辺に舟をもやり、釣上げたキス飯と持参の酔心を直がんで飲む美味さは又格別のものもあり、一

時帰路につき三時過無事三原港に帰着、一風呂浴びて入船の祝盃を挙げ五時十三分発第二しおかせて福島中久喜両先生を見送る。

三度の正直で必ず復来ると力強く福島会長はいい残して三原の地を発って行かれた。(岸田記)

和歌山県支部

和歌山県支部長に

藤田 勇勝氏を

野山の緑もその色を濃くし、海辺の懐しい季節となりました。

六月二十二日、支部は白浜温泉に支部会を開催、白浜駅に到着後田辺の真砂祐祐君、福本智君のお世話で、新しく出来た有料ドライブウエー、新空港見物は三段壁の展望を楽しみ、静かな海に面した川久旅館へ。

夕、先程逝去された、明楽佐一郎、恩賀国吾良両先生への黙禱を捧げ、坂本豊松先生の叙勲(勲五等、瑞宝章)のお祝いの後協議に移り、新支部長に藤田勇勝先生を満場一致で可決した。次で懇親会に移り、和やかな盛宴を閉じ、一夜の夢を結びました。

次回は勝浦を予定していますから県下全会員の出席をおねがいします。明楽浩、伊藤正朝、河本弘之、南条準之助、藤田勇勝、真砂己義、畑見、前田秀夫、田中紀夫、真砂宇一、真砂圭祐、福本智、坂本豊松、井口岳久 (井口記)

和歌山県支部長

明楽佐一郎氏逝去

東京虎ノ門病院で加療中、六月九日「逝去された和歌山県支部長明楽佐一郎氏(赤心会)」の告別式は、十二日午後二時から同市万性寺で、同窓会長福島先生、大橋県知事をはじめ県、市関係者多数が参列して盛大に行なわれた、先生の御遺徳をしたって香華をたむける人の列は絶ゆる事なく、香煙は御靈(みたま)安からと六月の空にたちのぼるしめやかな読経の流れるうち、生前の御遺徳を偲び、御逝去をおしむ弔電弔辞が絶ゆる事なくおくられた。

支部会開催予定

- 10月6日 埼玉県支部総会
- 10月13日 福慶会創立五十周年記念式典
- 10月20日 千葉県支部総会
- 10月26日 神奈川県支部総会
- 静岡県支部総会

更始会

昭和三年卒

山口郎君受賞祝賀会及びクラス会を開催す。全員の出席を乞。

日時 十一月十日 午後五時
場所 後楽園飯店
会費 三千元(記念品代含)

クラス会だより

十年会

大正十四年卒

私達は、大正十年に入学して、十四年に卒業したが若き学生時代の旧友達が、今年は奈良に集合した。五月十八日、平井君の御世話で、春日神社、東大寺、興福寺、法隆寺、中宮寺、薬師寺、唐招提寺等に案内され、夕刻三笠ホテルにて、懇親会を開催、旧友家族と共に、昨年北海道大会の映画会と旧友との語会を深夜まで行なった。翌朝、飛火野にて鹿寄を見物、名物の奈良漬を風味しつつ飛火史跡めぐりと出掛けた。中食は、かしわの牛乳煮を喰べ、午後は、吉野山へと出かけた。全山青葉に包まれ、桜花の盛りをしのびつつ平井君の住居である五条にて休憩し高野山へと向った。其夜宿院にて十年会の総会を行なった。翌朝物故会員の冥福を祈り宿院本堂にて朝のつとめを行なった。高野山案内人につれられて、高貴の方々の御墓を案内され、奥の院まで行った。女人堂の前では一同、仏の教へのきびしかった其の當時を思い浮かべつつ宿院にて昼食をすませ、午後は、高野山をあとに、和

歌山へと向った。和歌の浦では風光明媚な色彩をながめながら、おわかれパーティーを終って、此の次の総会は、北陸で再会を約して解散した。出席者名、秋山基三、玉井克依、田中保吉、砂川宇一、石川秀道、佐藤泰造、白須賀二郎、山内岐、鈴木録二、山口辰郎、川又軍治、荒谷龍、平井義英、布川武夫、岡本種義、石原文海、野村保雄、石津純一、吉田弘之、久保田正一等で奥様御同伴も多く、全員三十九名だった。来年は山口辰郎、岡本種義兩名の御世話で北陸へ三泊四日の総会が計画された。(久保田記)

十四会

昭和四年卒

八月の会報で御案内いたしました卒業四十周年祝賀総会を左記の通りに決定致しました。御夫妻で御出席下さい。十一月十日晚五時会場赤坂。山王飯店。会費五千元。十月中頃に往復ハガキで出欠をいただきます。今から十一月十日を予定して置いて下さい。私達に係の深い諸先生を御招待致します。卒業五十周年がどんなかたちで

堅久会

昭和十六年卒

開かれるか、そんな事を考えると淋しくなります。今年は一入でも多くの諸氏と逢いたいのです是非御出席下さい。四十周年の小誌を作りたいと思つて居りますから最近の事柄感想等を高橋宛て御送り下さい、まづて居ります。毎年の事ですが御返事の無方がありませんが今度は是非一筆お送り下さい。

来年は又地方で総会を開きたいと思ひますが開催地の申込を戴ければ幸です。開催費の御迷惑はかけません。御願ひ申し上げ祝賀会の御出席を待つ。郵便番号一五一一渋谷区初台一の十 高橋初太郎

今春開催致しました東京及び近県の世話人会の席上満場一致で懇親会を静岡で行なう事に決定致しましたので幹事と静岡県在住の朝浪君、大野君、萩原君、佐藤君、栗田君の五君と数度に渡り打合の結果大変お骨折りを願ひました。が、左記の通り計画致しました。今回は関東と関西の中間の便利の良いみかんとお茶の静岡駅前ですので、暫らく顔を出さなかつた人も夫人同伴歓迎ですので奮って御参加下さい。

十六会

昭和十九年卒

九日静岡駅前「ホテル幸楽」午後五時迄に集合懇親会及び市内夜の観光
十日静岡→清水港→三保ノ松原
↓松陰寺→お媒観音→日本平、久能山→登呂遺蹟→静岡駅解散(三時頃)
会員にはパンフレット及案内状を各自発送致しましたが屈かない方は幹事迄御連絡下さい。尚毎度乍ら会費未納の方も同封の振替用紙にて御送金下さる様お願い致します。(前原記)

去る六月二十九日(土)三十日(日)岐阜草ランドホテルに於て十六会第二十四回年次総会を開催致しました。出席四十九名、北は北海道(沢田)南は九州(小堀)の両君、御家族同伴組八名と家庭的、新婚ムード、しばらく振りの顔、今もって学生時代と変らぬ御人、日常の奮闘の影が頭髮にチラホラの友だが楽しい元気な顔、今回総会開催に地元、河合、伊藤(隆)両君の御苦勞、配慮に依り美濃の国の夏の夜の風物、長良川の鶯飼の古式ゆかしい情緒、屋形船にゆられ、美女の酌、鮎の塩焼、平安の昔から伝わる鶯匠の妙技に心酔し総会の夜をとり、翌朝名勝木曾川の日本ライン下り、バス半



日コースで珍しい神社(ハッスルスタミナの神様)犬山城等見物、意気揚々と帰途につきました。総会に依り年会費千円に決定致しましたので宣敷くお願い致します。又、今総会から地方幹事選出の件が可決され静岡の中原君に依頼、承知して頂きました。今回の総会をもちまして兎玉、小沢、本山、古田、鹿野(善)幹事任期完了となり、次期幹事は総会で選出の結果、飯田、城所、金沢、坂本、佐貫、中原の諸君にお願い致します。

クラス会だより

た。
任期中会員の御支援、御協力を賜り大過なく運営出来ました事を幹事一同深く感謝致して次期幹事の御活躍と会員諸氏の御協力を重てお願い申し上げます。

十六会幹事一同
昭和四十三年七月

五十二期会

昭和二十二年卒

昨年九月より一年間、母校留学



中の呂清寛君、近く帰国しますので東京在住の52期会で歡送会を開催。参加18名(九月七日夜、写真参照)。呂君より52期の諸兄に呉々も宣しくとのこと。我々一同、呂君の将来の活躍を祈つてやみません。同夜席上、本年二回目のクラス会を左記のように決定。精細近日中に各人宛通知します。

翌朝解散

日時、十一月十日(日)一泊、

現地集合

場所 熱海青木館。十日、五時種々協議事項がありますので、多数諸兄の参加をお待ちしています。(山崎文男記)

いづみ会

昭和二十三年卒

先般会員各位に再度御案内いたしましたのが、第二十一回総会を左記のとおり開催いたします。

とき十月二十六日(土)午後四時集合、六時懇親会開宴

ところ 箱根湯本「吉野旅館」

(〇四六〇)五一五七三一一八

会費 八千五百円(御同伴の場合特別室加算三千六百円)
なお当日は開会前のひと時を学友中久喜教授の講演にあてること

にしました。さらに懇親会には昨年に引続き恩師近藤・加藤両先生の御臨席を確約しております。翌日は二十三年前両先生とともに終戦を迎えた学校疎開の地伊豆を尋ね、当時を回想したいと思えます。また愛知学院の河合教授は急遽九月二十五日外遊されましたので今回は出席できませんが帰朝の晩には盛大な歓迎会を設けその労をねぎらう予定です。

いそむ会

昭和二十六年卒

いそむ会のみなさん、お元気のことと思います。本年度の総会は十一月九日(土)午後六時より、昔なつかしい江戸情緒豊かな浅草吉原にある「松葉屋」で開催いたします。

昭和三十三年四月より施行された売春防止法によって、思い出の花街もその姿を消してしまいました。しかしながら、「松葉屋」には当時の面影を残して、みなさんの心の故郷にとけ込む因子を持ち合わせております。

なお、この度の総会は、学生時代のクラス主任であられた関根永滋教授が、ご還暦を迎えられたので、その祝賀会を中心として催すことになりました。もちろん、関根先生には、ご多忙中にも拘らずご出席下さいますので、是非多数

御参加下さい。詳細は、お手元に案内状を差し上げます。会費五千五百円(記念品代、年度会費を含む)

幹事、岡駒雄・中野年朗・森野俊雄・塚田隆 (鈴木和男記)

九喜会

昭和三十六年卒

昨年、伊香保(幹事大野君)において旧Aクラス会が盛大に催された。その際、来年は岐阜で開催し、幹事を酒向君に御願ひすることに決めた。

本年の春頃、皆様の御連絡したとおり、八月十七日鶴匠の家・杉山においてクラス会が開かれた。饗は鶴飼を見ながら、和気あいないうちに行なわれ、話しがつきなかった。

なお、当日は朝早くより、同好の士が集まり、酒向君の日本ライオンカンントリークラブでゴルフが行なわれた。山内、野村、中山、加藤、藤田、酒向、黒柳が参加。他にも腕自慢が多いようですから、次回は一層白熱したゴルフになると思われれます。

翌十八日朝、昨日の夜ふかしにもめげず、八時に朝食。来年は神奈川でクラス会を開催し、地元

の奈川でクラス会を開催し、地元鈴木、今村、武居、本間、加藤、箕田の諸君に世話役を御願ひすることにした。なお、卒業十周年には北海道で行なうことに満場一致で決定した。

出席者

伊藤(北海道)、今村(神奈川)、岩田(東京)、大野(群馬)、岡本(東京)、加藤(神奈川)、柏瀬(栃木)、久野(愛知)、黒柳(東京)、酒向(岐阜)、鈴木(神奈川)、田中(東京)、武居(神奈川)、土橋(東京)、中村(静岡)、中山(愛知)、長沢(群馬)、西辻(東京)、野村(東京)、船坂(東京)、本間(神奈川)、増田(東京)、水川(東京)、築瀬(栃木)、山内(東京)、若尾(山梨)、勝田(東京)、計27名
最後に、幹事酒向君の御苦労に感謝致します。(黒柳記)

次回は雑誌形式

原稿 〆 切

十一月二十五日

発行所 東京都千代田区三崎町二丁目九番十八号

電話 東京(二六二)三四二一(代) 東京(二六二)三四二一(代)
編集兼発行人 渡辺 富 士 夫